

～会計を通じて人に幸せを～

Hirai's レビュー

2010年8月号 (No. 20)

平井会計事務所 税理士 平井満広  
〒108-0023 東京都港区芝浦4-22-1  
芝浦アイランドエアタワー1704号  
電話:03-3452-7082 Fax:03-6303-3350  
Mail:m\_hirai@hirai-ao.com  
URL:http://www.hirai-ao.com/

## ヒントは請求書に！目に見えない問題の見つけ方

時計メーカーのA社は不景気の影響から売上が前年比80%まで落ち込んでいます。黒字確保のためには大胆なコスト削減が必要と考えた工場長は財務データを調べるうちに製品を梱包する箱代が高いことに気がつきました。

### ◆箱はどこへいった？

A社工場では1個250円の時計を製造・販売しています。製品を梱包する箱は1個5円なので箱代は売上比2%となる計算です。ところがここ数ヶ月の試算表では箱代が売上比2.5%まであがっています。値上げがないか箱を仕入れているB問屋に確認しましたが以前から据え置きとの返答でした。「価格でないなら数量の問題かな」そう考えた工場長は、破損や廃棄などのロス数量のデータを確認しました。工場では現在1日800個のペースで製品を製造・出荷しています。売上比2.5%とすると箱代は250円×800個×2.5%=5,000円で、箱は1日に1,000個使う計算です。「製品は800個なのに箱を1,000個も使うということは毎日200個もロスが出てるのか?!」工場長は背筋が凍る思いでデータを調べましたが幸いロス数量は1日5個くらいでした。「データが改ざんされていないかな」ほっとする間もなく工場長は作業現場を見に行きましたが200個ものロスが出ている気配はありません。「それなら在庫があふれているに違いない」そう考えた工場長は箱を保管する倉庫を見にいきましたが、ルールで決まっている在庫数しか残っていません。「社員の誰かが余った箱を横流ししてないか」不安がよぎった工場長は『倉庫から出した箱の数』と『製品を生産した数』の記録を調べましたが不自然な点はありません。「おかしいなあ」原因が特定できない工場長は途方にくれました。

なんとか原因を突き止めたい工場長は経理に頼んで財務データの基になっているB問屋の請求書を見せてもらいました。『倉庫に入った箱の数』と『請求書に書いてある箱の数』を調べると工場長はおかしな点を見つけました。

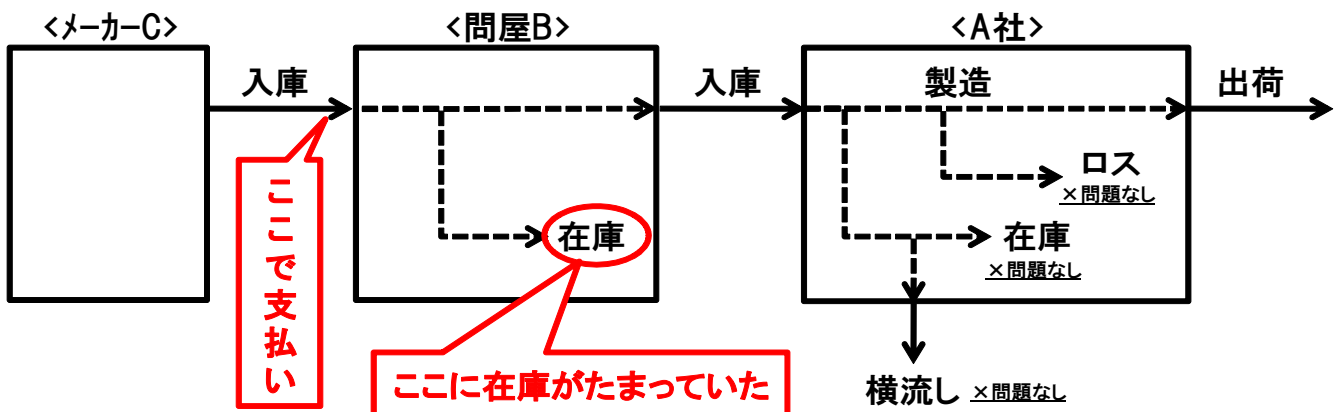
「倉庫に入った数よりも請求書の数の方が多いぞ」架空請求の証拠をつかんだのではないかと興奮した工場長は急いでB問屋に電話をかけて担当者を問いただしましたが、担当者は慌てることもなく落ち着いて答えました。

「あー、それならウチで預かっていますよ」。担当者の話では「請求書の支払いは箱を作っているメーカーCからB問屋に納品された時点で計算する」「A社に納品する前の在庫はB問屋が管理する」といった取り決めを前任の工場長と結んでいるとのことでした。念のため工場長は問屋Bの倉庫を確認しに行ったところ大量の箱が在庫になっていました。「ここにあったのか…」ようやく原因を突き止めた工場長は全身の力が抜けるのを感じました。その後、工場長はB問屋と交渉して「在庫を自社管理とするためB問屋の在庫をすべて引き取る」「今後はA社に納品された時点で請求する」といった、新しい取り決めを結ぶことができました。「これでロスの削減に全力投球できるぞ！」工場長は新たに闘志がわいてきました。

### ◆目に見えない問題があるときは

今回のケースのような『自社以外に在庫がたまっている』といった問題は現場だけではなかなか見つかりません。現場改善をしても財務データが改善しないときは、目に見えない問題がないか請求書などを調べてみましょう。

※このお便りは名刺の交換をさせて頂いた方にお送りさせて頂いております。ご不要の場合はご連絡ください。



☆ ブログもご覧いただけたら幸いです。(平日毎日更新)⇒[http://blog.goo.ne.jp/hirai\\_tax/](http://blog.goo.ne.jp/hirai_tax/)